



# 郷土三浦に誇りを持ち、これからの社会をたくましく生き抜く人材の育成

三浦市教育委員会



**三崎小学校**  
テーマ  
未来に生きる子  
～小規模校であることを  
「強み」ととらえ共に学  
び、進んで考え表現する  
子の育成～

**岬陽小学校**  
テーマ  
自分らしくいきいきと  
表現する子  
～伝えたい場・  
かかわりづくり～

**三崎中学校**  
テーマ  
「主体的・対話的で深い  
学び」の実現を目指す  
授業改善  
～主体的に学び合う生徒  
の姿を目指して～

**南下浦中学校**  
テーマ  
学力の三要素を  
意識しながら生徒が気  
づく授業作り

**初声中学校**  
テーマ  
主体的に学ぶ子  
～主体的な学びへ  
つながる授業づくりを  
目指して～

**名向小学校**  
テーマ  
生き生きと学ぶ子  
～深い学びを通じた  
思考力の育成～

**南下浦小学校**  
テーマ  
自ら学ぶ子  
～もっと知りたい・  
やりたい・学びたい～

**上宮田小学校**  
テーマ  
自他の「いのち」の大  
切さに気づき、考え、  
行動できる子どもを育  
む～

**旭小学校**  
テーマ  
自分のよさを大切にし、  
相手のよさを尊重できる  
子～自己の生き方につ  
いての考えを深める授業の  
工夫を通して～

**剣崎小学校**  
テーマ  
子どもの豊かさを育む学び  
を目指して～授業の工夫とえ  
ななみタイム・MIMの実践を通  
して意欲的に学習に取り組む子  
を育てる～

**初声小学校**  
テーマ  
自ら学び 未来を創  
る初声っ子

## チーム三浦の授業実践

### ◆国語(3年) 三浦市立名向小学校

豆太が一番勇気を出しているところは？本文から見つけて考  
えよう。

- C: 足から血が出たのところ。それなのに助けようという気持ち  
が残っている。
- C: ほかも同じ。足から血が出ているのに。
- C: 自分は、理由は同じだけど泣き泣きのところ。
- C: 医者様を呼ばないのところ。豆太は夜がこわい子なのに。
- C: 大好きなじさまのために思っている。
- C: 子犬みだいにのこころ。夜がこわいのになじさまのことを思っ  
ていると思う。
- C: 夜のこわさよりなじさまが死んだほうがこわい。
- C: 4場面の豆太は、おくびょうって思っていたけど、本当は勇  
気がある人だった。
- C: 勇気が出たのが分かった。なじさまを助けようと思ったのは、  
今までの感謝だと思う。

#### ★ポイント

友達の考えを聞きながら、自分の思いと共通する部分があ  
ると発言をし、本時のねらいにせまっていた。子どもの発  
言を視覚的にとらえた板書が、さらに思考を深めるものとな  
っていた。

### ◆タブレット研修会 三浦市立初声小学校

授業でタブレットを活用できるように、まずは、教員がタブレッ  
トをつかってみよう。

- ◇Googleの機能はどんなものがあるのか？
- Googleフォーム、ジャムボード等でどんな学習ができる  
のかについて研修
- ◇タブレットを授業に活用してみよう
- ジャムボードやスライドを使った授業を進めていった。  
資料作成時、ドキュメントを活用するようになった。
- ◇子どもたちに情報モラルを伝えよう
- 6年生2クラスで情報モラルの外部講師による授業を実施。  
トラブルに巻き込まれないように情報の基礎を学ぶことが  
できた。その後、職員研修を行い、他学年や保護者へも広  
げていく。

#### ★ポイント

(株)教育ネットを講師として、教員研修を行った。  
様々な機能に触れ、授業の中で活用しているという意欲  
が高まった。今後は、校務の効率化なども視野に入れてど  
んどん活用していきたい。

### ◆美術(3年) 三浦市立南下浦中学校

オリンピックエンブレムには正方形以外の形があるが、なぜ、  
そのような形を組み合わせたのかを鑑賞しながら考えよう。

- ①これまでに培った鑑賞の能力を生かしながら、鑑賞を  
する。
- C:炭治郎柄だ。市松模様。
- C:よくみると正方形だけじゃない。組み合わせだ。
- ②グループでさらに鑑賞し、意見を交流する。
- C:扇子っぽいね。日本らしさを出したいのでは？
- C:真ん中が桜に見える。すごいね。
- C:立体の組み合わせで光と影が見える。
- ③全体共有、グループ交流をもとに自分の考えをワーク  
シートにまとめる。

#### ★ポイント

鑑賞する、対話する、書いて考えるというバランスのとれ  
た活動で、子ども一人ひとりが自分の考えをもつことができ、  
他者の考えをくみとりながら違いを受け入れ、考えが深まっ  
ていった。「気付き」を大切に授業をすることで、子どもた  
ちの伝えたい思いが高まっていった。